

【小学校 作文 優秀賞】

平和は必ずおとずれる…。

南城市立大里北小学校 六年

金城 かの子

それは、六十四年前。だれもが、悲しみ苦しく、つらさにおしつぶされそうな戦争。その中で、生き地ごくを体験した私のおじいちゃんの話です。

当時小学校四年生のおじいちゃんは、お父さんが大ケガをし、お兄ちゃん達も戦争に取られてしまったため、家には男手がなくなり、家族は大へん困ったそうです。小学生だったおじいちゃんも集められ、村の防空ごう作りをさせられたそうです。さらに、空しゅうけいほうになると、大事な物がつめこまれたふくろを手に取り、母の手をにぎり、幼い妹をおぶって防空ごうを目指し、ヤンバルの森をおく深く、にげまわったそうです。また防空の中では、火を付けてはならず、真っ暗な中で過ごしたそうです。私はおじいちゃんに、

「暑い時や寒い時は、どうしていたの?。」

と聞くと、返ってきた返事は、

「わからない。暑さや寒さは、感じていられなかった。こわくてこわくて、それだけでいっぱいだった。」

私は、その言葉にハツとしました。私が想像する以上に、戦争はこわくて、人の感覚さえもうばってしまうもの。自分の考えの甘さに、はずかしくなりました。

青い空、青い海、まぶしい太陽の下で子ども達の笑い声がひびく、現在。人々を地ごくの苦しみに追いつめた戦争なんてなかったかのように平和な沖縄。真実を語る人が、どんどん減っていく中で、少しでも知っている人が、次の世代へ語りつがなければなりません。

みなさんが知っているような戦争は、本当とはちがいます。三日間、何も食わずに生活できますか?。目の前で人が殺されるのにたえられますか?。死体の山をはだして歩けますか?。このような今ではありえないようなむごい事を、昔の人々たちは、経験しているのです。私だったら、むねがこわれそうで苦しくなります。

毎日、自由に学校や部活など楽しい生活をしている私達のような小学生でも、次の世代に向かってできることがあるはずです。たとえば、自分とちがう考え方の人の話をよ

く聞き、相手を理解する努力をする。また、自分の意見も相手にわかるように説明するなど、していけば、争いにはなりません。

失われた命の声なき声を私達にとどけるために生き残ってくれたおじいちゃん、おばあちゃん。あの戦争から発信された平和への声を今、生きている私達が受け止めなければなりません。そうでなければ何のために尊い命をかけて戦ったのか分かりません。

平和な世界であたり前に生きている私たちは、それを大きな奇せきだとさげびたい。戦争なんかで亡くなった、多くの人々のためにも、今を、大切な平和な今をせいっぱい生きてほしい。そう私は言いたいです。

生まれてきた奇せき、平和な世の中に生きている奇せき、それなのに、自殺や殺人事件など、多くの人たちが亡くなっています。こんな事で、私は命をうばわれたくないのです。とてもかわいそうです。これもまた人と人が生み出した、戦争です。これが平和な世の中といえるのでしょうか。

今から何百年も続くであろうこの平和な星地球が、本物の平和な星になってほしい、戦争なんてくだらないことを今すぐにやめて全ての人が仲よくなってほしい。私の小さな小さな願いですが、地球上の全ての人がいっしょに願えば、本当のことになってくれるかな気がするのです。

平和は必ずおとずれる。今も、未来も、絶対に。